

特集 1. 思考特性を理解する

第 1 回 家づくりにおける既有知識の役割**

平成 20 年 8 月 5 日

□ ヒトは理性的か

「人間は理性的な動物なり」。古代ローマの政治家、思想家、詩人であるルキウス・アンナエウス・セネカの言葉とされています。この言葉だけをみると、ヒトは常に冷静で的確な判断をする存在のように思われます。しかし、実態は大きく異なります。冷静に何の迷いもなく、堅実な家づくりが行える人など滅多にいないのです。

では、なぜこのようなギャップが生じてしまうのでしょうか。原因はいくつか考えられます。しかし、主たる要因は、我々の思考特性がもともと理性的・合理的とは言い切れないという点にあるといえます。

では、ヒトの思考にはどのような特性があるのでしょうか。今回のコラムでは、この問いに答えながら、ヒトの思考と家づくりの関連性について考察していきたいと思います。

□ 思考における既有知識の役割

ヒトは常に理詰めで論理的に考えるのではなく、既存の知識体系（スキーマ）に照らし合わせて、物事を判断する傾向があります。これを「スキーマ理論」といいます。

- (1) いれものに りんごが入っている
- (2) いれものに コーラが入っている

(1) (2) の文章とも、論理的に言えば、それだけでは情報不足で、「いれもの」がどんなものであるかは、本来は特定できません。しかし、この 2 つの文章を見たとき、多くの人が、(1) の「いれもの」は「バスケット」、(2) は「ピン」か「コップ」と解釈します。

こうした解釈はりんごとコーラが、それぞれどのようなものか知っているからこそ生じたといえます。なぜなら、情報不足の文章でも、りんごとコーラ、それぞれに対する既有知識を参照・活用することで、推論に必要な情報が補われたと考えられるからです。

そして、(1) にはりんごスキーマ、(2) にはコーラスキーマという別々のスキーマが適用され

** 初めて記事をご覧になる方は、必ず「[利用規約](#)」をご確認ください

たことで、同じ「いれもの」という言葉に、別々の解釈が与えられたと考えられるのです。

このように過去の経験などから得た知識体系（スキーマ）に照らし合わせることで、日常の情報を効率よく処理することが可能となります。しかし、こうした傾向はその反面、我々の思考に次のような特徴ももたらすと考えられます。

- 1. 誤ったスキーマ・偏ったスキーマは、不適切な判断や理解につながりやすい
- 2. 既存の知識体系にとらわれ過ぎると、偏見が生じやすい
- 3. スキーマが未形成・未発達の場合は問題解決や推論が停滞しやすくなる

□ スキーマの有無

上記の3つの特徴は、どれも実際の家づくり影響を及ぼすものと考えられます。しかし、その中でも特に「スキーマが未形成・未発達の場合は問題解決や推論が停滞しやすくなる[†]」という特徴が、日本人の家づくりに多大な影響を及ぼしていると考えられます。

□ 制度と思考特性の悪循環

住制度、住文化の違いにより、日本には家を住み替える習慣が根付いていません。そのため、日本人の住宅取得回数は他国に比べ、極端に少なく、初めて家づくりをする人の方が圧倒的に多い傾向があります（図1）。

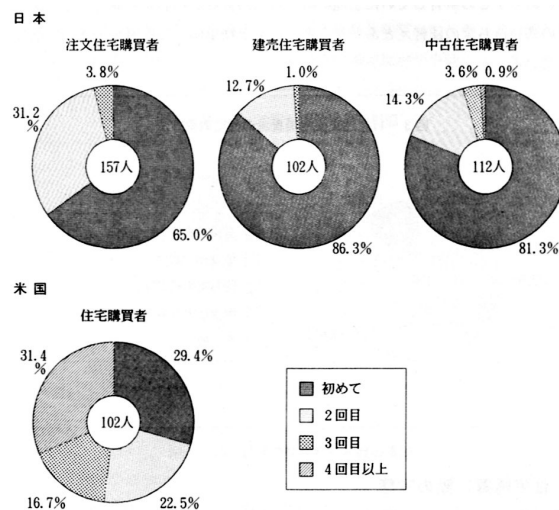


図1 日米の戸建て住宅取得の経験回数³⁾

日米とも、一戸建て購入者が回答対象者。日本のみ、取得形態別の回答を得ています。

[†] 3 ページ「付録」の例題でこのことが確認できます

過去に家づくりの経験が無いということは、家づくりに関する既存の知識が未形成・未発達である可能性が高いのです。つまり、日本人の多くは家づくりスキーマが不十分のまま、一生に一度の家づくりを行っていると考えられるのです。

「照らし合わせるスキーマが不十分でも、適切な情報を収集し的確な判断をすれば、スムーズかつ確実な家づくりができるはず」と思った方もいらっしゃると思います。確かにヒトが「理性的な動物」であるなら、そうなるはずですが、実際にはそうなることは、あまりありません。

それは一体なぜでしょうか。このことについては、[次回](#)以降、ヒトの推論そのものの特性に触れながら説明していきたいと思います。

参考文献

- (1) 波多野誼余夫. 認知心理学講座 4 学習と発達. 東京大学出版会, 1982.
- (2) 市川伸一. [考えることの科学](#). 中央公論社, 1997.
- (3) 日本住宅総合センター. 住宅価格の日米比較 [II], 1994.
- (4) 市川伸一 (編). 認知心理学 4 思考. 東京大学出版会, 1996.

付録

一方の面には数字が、他方の面にはアルファベットが書いてあるカードが何枚かあります。この中から 4 枚のカードを選んで、片面だけが見えるように並べたとします。



さて、これらの 4 枚のカードについて、

「もしあるカードの片面に母音を書いてあるならば、そのカードのもう一方の面には偶数を書いてある」

という規則が成り立っているかどうかを確かめたいのですが、そのために裏面に何が書かれているかを必ず見なければならぬカードだけを選んでください。

図 2 4 枚カード問題⁴⁾

図 2、図 3 (次項) の問題とも論理構造は同じです。しかし、図 2 の問題の方が相当難しく感じられるはずです。実際、図 2 の 4 枚カード問題の正答率[†]が 10 % 程度、その飲酒バージョンの方

[†] 正解は E と 7 のカード。論理学においては、「P (母音) ならば Q (偶数) である」という命題を証明する際には、その対偶命題である「Q でなければ (子音なら) P でない (奇数である)」ということを確認すればよいのです。

この課題では、あなたは勤務中の警官であると想像してください。あなたの仕事は、人々がある規則を守っているかどうかを確かめることです。あなたの前にあるカードには、テーブルについている4人の人々についての情報が書かれています。カードの片面には人の年齢、カードのもう一方の面にはその人が飲んでいるものが書かれています。規則はつぎのとおりです。

「もしある人がビールを飲んでいるならば、その人は19歳を超えていなければならない。」

人々が規則に違反しているかどうかを決定するために明らかに必要なカードを選んで下さい。

ビールを 飲んで いる	コーラを 飲んで いる	16 歳	22 歳
-------------------	-------------------	------	------

図3 4枚カード問題の飲酒バージョン⁴⁾

は70%と、その正答率には大きな隔たりがあります。

ヒトは、日頃、飲酒・喫煙行為などの許可・禁止判断を行っています。そして、その経験を通して、許可判断に対する抽象的な知識体系（許可スキーマ）を形成します。このようなスキーマの有無が、両者の正答率[†]の差に影響を与えているとする説があります。

*記事の感想をお聞かせください

[アンケート画面へ](#)

[†] 図3の正解は「ビールを飲んでいる」と「16歳」のカード。

【寄付歓迎】当コラムは無料ですが、ご寄付は歓迎します。詳しくは[ご支援依頼](#)をご覧ください。